

編集後記

2024年1月より編集委員として学会誌の運営に携わらせていただいております、九州大学の實松と申します。編集作業を通じて、各分野の先生方の熱意と丁寧な議論の積み重ねによって、これまでの学会誌が形づくられてきたことを実感しております。本誌が多くの方々のご尽力により支えられてきたことに、改めて心より御礼申し上げます。個人的なことながら、来年で本学会への入会から20年を迎えます。この間、研究手法や対象領域は大きく変化しましたが、味と匂いという感覚の不思議を探る楽しさと奥深さは今も変わりません。本誌が、世代や分野を超えて研究者をつなぎ、互いの知見を高め合う場であり続けることを願っております。

本号では、2023年に功労賞を受賞された朝日大学・裕哲崇先生による巻頭言をはじめ、特集「企業における味覚・嗅覚研究の実際」として、6報のご寄稿をいただきました。特集では、産業実装へと至る道筋や、学術と企業研究の融合の可能性を示唆する大変興味深い内容となっております。また、EXPO 2025 大阪・関西万博で活気づく大阪の地、歴史ある大阪大学会館にて盛況に開催された第59回大会については、大会長・八十島安伸先生より開催記をご執筆いただきました。さらに、総説1報、海外だより1報、研究室紹介2報、技術ノート1報、「若手の会」1報、書評1報と、多彩な内容を掲載しております。ご多忙の中ご執筆くださった著者の皆様に、深く感謝申し上げます。

今後とも、日本味と匂学会学会誌への変わらぬご支援とご投稿を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

(九州大学・實松敬介)

2024年1月より編集委員を務めることになりました、高砂香料工業株式会社 研究開発本部の寺田です。これまで一読者として本誌に触れ、さまざまな研究から新たな視点や発想を得てまいりました。このたびは編集という立場に関わることとなり、身の引き締まる思いもありますが、誌面を通じて、多くの先生方や学生の皆さまとゆるやかに交流できればと考えております。

さて、本号では特集として企業における味・嗅覚研究を取り上げています。これまでも企業の記事はございましたが、特集としてまとめられたのは今回が初めてではないでしょうか。企業の研究開発にも、読者の皆さまが関心を寄せるきっかけとなれば幸いです。(ちなみに当社の記事も掲載されております。)

ところで、今年7月に京都で開催された「一般社団法人オルファクトリーフレイル学会」創設記念講演会に参加しました。味と匂学会のHPでも案内があり、ご存じの方も多いかもしれません。本学会は、嗅覚フレイル(嗅覚の虚弱)を社会的な健康課題として提示し、人々の健康とQOLの向上を目指して設立されました。理系分野だけでなく、アートを含む人文科学の研究者まで幅広く参画しており、初の開催となった記念講演会は、座席が追加されるほどの盛況でした。他人事とは言えない嗅覚フレイルの問題について、私自身も引き続き注目していきたいと思えます。

(高砂香料工業(株)・寺田育生)